



The Institute of Electronics, Information and Communication Engineers

電子情報通信学会 特別号 April 2020

情報・システムソサイエティ誌

IEICE INFORMATION AND SYSTEMS SOCIETY JOURNAL

令和2年度ソサイエティ活動

情報・システムソサイエティ次期会長

佐藤 洋一

東京大学



情報・システムソサイエティ(以下, ISS)は, 約 9,200名の会員で構成され, 情報処理技術, コンピュータ・通信・人間を融合したシステム化技術に関する基礎から応用に至るまで幅広い分野を対象とし, 電子情報通信学会の中で最大のソサイエティとなっています。

ISSの役割は, 会員に研究発表と交流の場を提供し, 重要な社会基盤である情報技術分野の持続的な発展と情報社会における様々な課題の解決に貢献することにあります。情報技術分野を取り巻く環境が目まぐるしく変化中, ISSが我が国における情報技術分野の中心的活動母体であり続けるべく, 令和2年度は, 以下の内容に重点を置いて活動を展開していきます。

● 論文誌

研究の学術的, 実用的価値は, その成果を出来るだけ多くの人々に知ってもらうことによって初めて生まれます。他分野と比べて, 情報技術分野では国際会議が重視される傾向にあります, 研究成果の集大成として論文をアーカイブする論文誌の重要性は今後も変わりません。英文誌(ED)では, より多くの質の高い論文を掲載し, 国内外を問わず幅広い方々に読んで頂くために, 他ソサイエティに先がけて, 2017年1月より過去の発行論文を含めた全論文の無料公開を始めました。その結果, 論文誌へのアクセス数が約2倍に増加しました。一方, 論文誌への投稿数は微減となっているため, 今後は投稿論文増加のための方策を検討していきます。また, 和英両論文誌ともに編集委員, 査読委員の拡充など論文誌の質向上にも取り組んでいます。

● 研究会

現在, ISSには26の研究専門委員会(研究会)があります。学術的興味を共有する研究者, 技術者, 学生が集い, 研究の萌芽段階から応用に至るまで密な議論を交わすことができる研究会は, 人的ネットワーク形成や日本発の研究の創出の原動力となっており, その活動はISSの根幹を成しています。ISSでは, 研究会活動の

更なる充実を目指し, 研究会活動の意義や価値の最大化と効率的運営の両立に取り組んでいきます。また, 2018年度から, 企業との連携を深めつつ研究会の活性化を図るために導入したスポンサーシップ制度についても, 研究会による特別企画等の開催支援や国際会議の主催・共催による国際化など, 各学術領域の活性化への活用等を図っていきます。

● 総合大会とFIT

総合大会, FITは, 裾野の広い研究発表や意見交換, さらに情報収集の場として有効です。総合大会では, ISSが企画した学生ポスターセッションに毎年200件以上の発表があり大変盛況となっています。また, ソサイエティ横断のウエルカムパーティなどの企画も実施されており, 他分野の研究者との交流の場となっています。今年度は, 学生の発表の奨励と学会への積極的な参加を促すべく, 更なる選奨の充実等を進めます。FITについても, 前回に引き続き, 発表者を含めた参加者のメリットに焦点を当てた「効率・視野・若手」の基本コンセプトを軸に, 更なる内容の充実と広報活動に努め, 集会としての価値を高めていきます。

● ソサイエティ誌

ソサイエティ誌は, ISSの広報誌としての役割を担っています。学会誌では取り扱えないような, 研究会の発表者, 参加者, さらに運営側の幹事団など, 対象を限定することで初めて企画できる, より深く, より役に立つ情報を提供する記事など更なる内容の充実を図ります。今年度は通巻100号に合わせた特別企画も検討されています。

以上のように, ISSでは会員サービスの向上を目指した様々な取り組みを進めています。ISSの活動を通じて素晴らしい成果を発表し, 多くの会員にお伝えいただければと思います。また, 運営へのご意見があれば, ぜひお寄せください。

情報・システムソサイエティ誌とは？

情報・システムソサイエティが1996年度より年4回発行しているソサイエティ会員向けの情報誌です。

内容は、ソサイエティからのお知らせ、研究専門委員会の動向、研究室紹介、フェローの方々による寄稿、連載コラムなど、会員の皆様の役に立つ情報を満載しております。

特に、毎号の巻頭言には、電子情報通信分野の著

者の方々から寄稿を頂き、好評を博しております。今後も学生や企業の方などより幅広い方々に役立てて頂けるよう、ますます内容の充実を図る予定です。

情報・システムソサイエティ誌は、情報・システムソサイエティに登録をすれば自動的に送付されます。以下でも更に詳しく御紹介します。

ISS 達人へのステップ 1

情報・システムソサイエティ (ISS) への登録を

電子情報通信学会では1995年4月よりソサイエティ制になり、会員はいずれかのソサイエティに属することになっています。

これから学会に入会される方はもちろん、複数のソサイエティへの登録を希望される方も、ぜひISSに御登録下さい。なお、複数に登録する場合のISSソサイエティ

誌及びオンラインジャーナル購読の追加登録料は3,500円(学生は2,000円)です。ISSへの追加登録を御希望の方は、早急に下記の様式で御連絡下さい。

購読のほかにISSの様々な特典が利用できます。また、ISS論文誌を購読する場合はステップ2を参照して下さい。

ISS 達人へのステップ 2

情報・システムソサイエティ (ISS) の論文誌は和英2種類

基本登録でオンラインジャーナル(和・英論文誌)の閲覧が可能です。追加登録を御希望の方は早急に下記の様式で御連絡下さい。

なお、和文論文誌D及び英文論文誌Dのキーワードは下記のとおりです。

キーワード：

情報・システム基礎／計算機システム／ソフトウェアシステム／ソフトウェア工学／データ工学、Web情報システム／情報ネットワーク／ディペンダブルコンピューティング／人工知能、データマイニング／ヒューマンコンピュータインタラクション／オフィスインフォメーションシステム、e-ビジネスモデリング／教育工学／福祉工学

パターン認識／音声、聴覚／画像・映像処理／画像認識、コンピュータビジョン／コンピュータグラフィックス／マルチメディア処理／自然言語処理／バイオサイバネティクス、ニューロコンピューティング／生体工学／音楽情報処理／感性情報処理

連絡先： E-mail: kaiin2@ieice.org Phone: 03-3433-6691(ガイド番号:1) Fax: 03-3433-6659

名 前 (会員番号)
所 属
連絡先 〒
Phone: Fax: E-mail:
ISS ソサイエティ追加 (オンラインジャーナルとソサイエティ誌)

*なお、オンラインジャーナルの閲覧は登録処理後からとなります。
(現在、英文論文誌Dはオープンアクセス化を実施中です。)

ISS 達人へのステップ3

情報・システムソサイエティ(ISS)所属研究会の年間登録を

ISSには23の研究専門委員会があり、それぞれが活発に研究会（第一種研究会）を開催しています。2019年には、ISSにおいてのべ122回の研究会が開催され、約2,000件の発表が行われました。2020年度には、研究会参加費の改訂により、研究会にご参加頂きやすくなりました。特に年間参加登録がお勧めです。年間参加登録を行えば、学会Webページのプログラム上に予稿（技報）ダウンロード用のリンクが現れ、参加できない回の方も含めて簡単かつタイムリーに技報を入手できるようになりますので、大変便利です。学生員は3研究会まで無料で年間参加登録できます！さらに、ISSの全ての第一種研究会への一括参加登録（ひと月あたり1,000円（税別）のコストです）を行えば、当該年度のISSの全ての研究会の技報をWebのプログラム画面から入手できるようになり、極めて快適です。技報オンラインシステム（<https://www.ieice.org/ken/user/>）にログインし（未登録の場合はユーザ登録が必要）、[技報完全電子化]参加費・年間登録費のお支払い/ダウンロード権の購入のリンクからご登録ください。クレジットカード決済または請求書払いが可能です。どうぞ積極的に研究会活動をご活用ください。

表1：研究会参加費（会員の場合）

	オンライン申込（税別）		当日現金払（税込）	
	会員	非会員	会員	非会員
一般	1,800円	2,700円	2,000円	3,000円
学生（注）	設定なし	1,000円	500円	2,000円

注：学生で技報電子ファイル不要の場合は、参加費は無料です。

表2：研究会年間登録費

研究会（記号）	登録費（税別）	委員長
MEとバイオサイバネティクス(MBE)	6,000円	野村 泰伸(阪大)
ライフインテリジェンスとオフィス情報システム(LOIS)	6,000円	山田 智広(NTTエレクトロニクス株式会社)
画像工学(IE)	6,000円	木全 英明(NTT)
言語理解とコミュニケーション(NLC)	4,000円	榊 剛史(ホットリンク)
コンピュータシステム(CPSY)	6,000円	入江 英嗣(東大)
コンピューテーション(COMP)	5,000円	藤戸 敏弘(豊橋技科大)
人工知能と知識処理(AI)	6,000円	福田 直樹(静岡大)
ソフトウェアサイエンス(SS)	4,000円	中田 明夫(広島市立大)
データ工学(DE)	4,000円	宮崎 純(東工大)
パターン認識・メディア理解(PRMU)	6,000円	佐藤 洋一(東大)
ディペンダブルコンピューティング(DC)	6,000円	福本 聡(首都大東京)
ニューロコンピューティング(NC)	5,000円	庄野 逸(電通大)
知能ソフトウェア工学(KBSE)	5,000円	桑野 文洋(日本工大)
音声(SP)	6,000円	河井 恒(NICT)
教育工学(ET)	6,000円	鈴木 栄幸(茨城大)
医用画像(MI)	5,000円	河田 佳樹(徳島大)
ソフトウェアインタプライズモデリング(SWIM)	4,000円	荻野 正(明星大)
リコンフィギュラブルシステム(RECONF)	4,000円	柴田 裕一郎(長崎大)
情報通信システムセキュリティ(ICSS)	4,000円	高倉 弘喜(NII)
情報論的学習理論と機械学習(IBISML)	4,000円	鹿島 久嗣(京大)
マルチメディア情報ハイディング・エンリッチメント(EMM)	6,000円	川村 正樹(山口大)
クラウドネットワークロボット(CNR)	4,000円	高汐 一紀(慶大)
サービスコンピューティング(SC)	4,000円	中村 匡秀(神戸大)
上記の全ての研究会への一括参加登録	12,000円	

FIT2020 第19回情報科学技術フォーラム

選奨論文・一般論文 講演募集案内



【会期】2020年9月1日(火)～3日(木)

【会場】北海道大学 札幌キャンパス(札幌市北区)

FIT2020 Web ページ <https://www.ipsj.or.jp/event/fit/fit2020/>

受付期間：2020年3月30日(月)～5月8日(金)

電子情報通信学会 情報・システムサイエティならびにヒューマンコミュニケーショングループは、情報処理学会と合同で、2002年から毎年秋季に「情報科学技術フォーラム(FIT: Forum on Information Technology)」を開催しており、2020年9月に第19回目を北海道大学で開催します。

FIT2017より「査読付き論文」を廃止し選奨論文制度を導入しました。論文の種類は、「選奨論文」と「一般論文」があり、「選奨論文」の中から、船井ベストペーパー賞及びFIT論文賞を、「一般論文」の中からFIT奨励賞を選定し表彰します。また、論文の種類に関わらず、若手研究者を対象に優れた発表をした方を選定し、FITヤングリサーチャー賞として表彰します。

【FIT論文表彰制度】

船井ベストペーパー賞	選奨論文の中からFIT学術選定委員会で審査の上、3件選定 賞金は船井情報科学振興財団より20万円贈呈
FIT論文賞	選奨論文の中からFIT学術選定委員会で審査の上、7件程度選定 賞金はFIT運営委員会より5万円贈呈
FITヤングリサーチャー賞	2020年12月31日現在で33歳未満の講演者の中から、特に優れた発表をされた方を選定 賞金はFIT運営委員会より3万円贈呈
FIT奨励賞	一般論文のセッション毎に座長の裁量で優秀な発表を1件その場で選定(該当なしもあり) FIT後に賞状贈呈

多彩なイベントが企画され広範な分野の研究者が一堂に会する本フォーラムは、皆様にすばらしい研究成果発表と最新の情報収集の場を提供します。詳細は逐次上記「FIT2020 Web ページ」に掲載いたします。

○● 電子情報通信学会 情報・システムサイエティ誌編集委員会 ●○

● 副会長 (編集会議担当)

和田 親宗 (九工大 wada@brain.kyutech.ac.jp)

● 編集委員長

坪下 幸寛 (富士ゼロックス Yukihiro.Tsuboshita@fujixeroc.co.jp)

● 編集幹事

大塚 真吾 (神奈川工科大 otsuka@ic.kanagawa-it.ac.jp)

日置 尋久 (京大 hioki.hirohisa.2x@kyoto-u.ac.jp)

● 特任編集幹事

菅谷 史昭 (マインドワード fsugaya@mindword.jp)

松居 辰則 (早大 matsui-t@waseda.jp)

宮崎 修一 (京大 shuichi@media.kyoto-u.ac.jp)

門田 啓 (NEC monden@nec.com)

篠崎 隆宏 (東工大 shinot@ict.e.titech.ac.jp)

林 良一 (NTT ryoichi.hayashi@hco.ntt.co.jp)

神原 誠之 (奈良先端大 kanbara@is.naist.jp)

金子 晴彦 (東工大 kaneko@c.titech.ac.jp)

● 企画広報幹事

寺尾 真 (NEC m-terao@nec.com)

● 和文論文誌編集副委員長

吉本 潤一郎 (奈良先端大 juniti-y@is.naist.jp)

● 英文論文誌編集副委員長

山田 浩史 (東京農工大 hiroshiy@cc.tuat.ac.jp)

● 編集委員

堀瀬 友貴 (東京女子医大 horise.yuki@twmu.ac.jp)

渡部 智樹 (NTT tomoki.watanabe.cd@hco.ntt.co.jp)

海野 恭平 (KDDI 総合研究所 ky-unno@kddi-research.jp)

坂地 泰紀 (東大 sakaji@sys.t.u-tokyo.ac.jp)

木村 睦 (龍谷大 mutsu@rins.ryukoku.ac.jp)

脊戸 和寿 (成蹊大 seto@st.seikei.ac.jp)

太田 唯子 (富士通研 yuiko@jp.fujitsu.com)

島 和之 (広島市立大 shima@hiroshima-cu.ac.jp)

大塚 真吾 (神奈川工科大 otsuka@ic.kanagawa-it.ac.jp)

田村 雅人 (日立 masato.tamura.sf@hitachi.com)

金子 晴彦 (東工大 hkaneko@fuji.cs.titech.ac.jp)

神原 裕行 (東工大 hkambara@hi.pi.titech.ac.jp)

木村 功作 (富士通研 kimura.kosaku@fujitsu.com)

小橋川 哲 (NTT satoshi.kobashikawa.he@hco.ntt.co.jp)

大沼 亮 (福島大 onuma@sss.fukushima-u.ac.jp)

大竹 義人 (奈良先端大 otake@is.naist.jp)

五月女 健治 (法政大 saotome@hosei.ac.jp)

佐藤 真平 (東工大 satos@ict.e.titech.ac.jp)

森永 聡 (NEC mori-chin@nec.com)

日置 尋久 (京大 hioki.hirohisa.2x@kyoto-u.ac.jp)

神原 誠之 (奈良先端大 kanbara@is.naist.jp)

細野 繁 (東京工科大 hosonosgr@stf.teu.ac.jp)

河野 義広 (東京情報大 yakawano@rsch.tuis.ac.jp)

山下 倫央 (北大 tomohisa@complex.ist.hokudai.ac.jp)

上原 稔 (東洋大 uehara@toyo.jp)